

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2874300367		
法人名	社会福祉法人 みすず福祉会		
事業所名	グループホームすまいる		
所在地	赤穂市鷗和95-35 (電話) 0791-43-8988		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000円 + 光熱水費実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,700 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	てんわかかりつけ医院
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすまいるは、JR赤穂線の天和駅の近くにあり、国道250号線の車の往来が多いところに位置している。周りのはのかな田園地帯であるが、車で10分位のところにある赤穂駅周辺はスーパー等で賑わっている。利用者は思い思いにゆったり過ごしており、利用者同士温かい言葉のやり取りが行われている。運営推進会議には、行政や地域の団体などからも参加しており、積極的な議論が行われている。職員は外部研修に参加したいという前向きな意欲があるので、体制の整備が望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果について全体会議で話し合い、職員全員への周知を図り、課題とされた外出支援や鍵をかけないケアの実践に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は、ケア会議で職員が話し合った意見をまとめ、最終的には管理者が作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議で第三者評価の結果を報告し、外出支援についての情報や助言、赤穂周辺の行楽地と地図を記載したマップの提供などの協力を得ている。市議員や市職員、自治会長、民生委員の立場からの活発な意見や協力があり、具体的にサービスの向上が図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族には、健康状態については2週間に1回、金銭管理については月1回報告している。利用者の暮らしぶりは、毎日の様子を定期的に送付している。玄関には意見箱を設置している。主として、管理者が家族から苦情や意見を聞くようにしているが、介護支援専門員の交代や人手不足で十分対応出来ていない状況である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会、老人会には地区の利用者しか入会出来ないが、利用者で地域に住まいがある人は入会し、地域の行事に参加している。行政や自治会長、各団体から情報がもらえるので、義士祭や地元のデモンストレーションなどに参加している。運営推進会議のメンバーである民生委員の家が事業所に隣接しているので、利用者の話し相手として訪問があるなど、積極的に交流している。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホームすまいるは、地域の方々との交流行事にも積極的に参加するなど、できる限り利用者の方々が外出することを援助します」を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を職員は共有・理解しており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には地区の利用者しか入会できないが、地域の各会からは情報や案内があるので、利用者は義士祭や地元のデーション踊りなどに参加し、地域の方との交流を楽しみにしている。運営推進会議のメンバーである民生委員の家が事業所に隣接しているので、利用者の話し相手として訪問があるなど、積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果について、全体会議やケア会議で職員が話し合い、課題とされた外出支援や鍵をかけないケアの実践に向けて取り組んでいる。今回の自己評価は、ケア会議で職員が話し合った意見をまとめ、最終的には管理者が作成した。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、第三者評価の結果について報告し、市職員からは、災害や感染症についてのアドバイス、自治会のメンバーからは地域の情報の提供を受けている。また、民生委員からは定期的なボランティア等の前向きな協力体制づくりの提案があるなど、会議での意見をサービスに活かしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に市を訪問し、近況報告をしている。市のイベント参加時には、席の確保等前向きに対応してもらえたり、利用者の要望で義士祭の歌を覚えるため、テープを貸してもらえたり等、気軽に声かけ出来る関係にある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回、家族に対して、利用者の暮らしぶりや自身で管理できる利用者には五千元までの金銭管理を行っているため、その使い道を報告している。健康状態については、2週間に1回報告している。また、職員の異動については、ホーム便りで紹介している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を置いているが、家族が訪問された時主として管理者が苦情を聞くようにしている。しかしながら、介護支援専門員の交代や人手不足で、苦情には十分対応できていない状況である。</p>		<p>家族等から出された意見等にしっかりと対応できるよう、聞き取りのアプローチも含め体制の整備が期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職については、家族・利用者に説明しており、ホーム便りでも報告している。異動による利用者の影響が少なくなるよう、基本的な担当はあるが、ユニット毎に職員は固定せず、半年毎に順次異動を行い、常日頃から全職員が全ての利用者を把握できるような体制にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、全体会議で職員の意見を聞いて勉強会を実施している。また、在宅酸素の扱いについて、隣の病院の看護師の指導を受けている。しかしながら、外部研修については、人手不足もあり参加したくてもできない状況にある。		職員は外部研修に参加したいという前向きな意欲があるので、段階に応じた研修計画をたて、研修に参加できるよう体制の整備が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しく開設したグループホームから研修に来たり、電話でのやりとりは行っている。しかしながら、たつの市・相生市のグループホームとで構築しているネットワークには、今年度参加することができず、同業者との積極的な交流を持つまでには至らなかった。		サービスの質の向上のためにも、積極的に同業者との交流を行うことが望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の方には、本人や家族にホームを見学してもらい、利用が決定した場合は、職員が自宅を訪問し、話を聞くようにしている。ただ、かかりつけ医の病院から、即入居の利用者もいるので、全利用者の内、ホームに馴染むまでの時間が取れていない方もある。		即入居の場合は、利用者・職員ともに戸惑いがあり、サービスがスムーズに受け入れられない場合もあるので、病院・ホーム・利用者・家族との話し合いのもと、利用者の安心と納得が得られた上での利用が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ぜんまいのあく抜き等、料理方法を利用者から教えてもらうことが多い。食事時間が終わった後、すぐに片付けをするのではなく、職員と共に過ごす時間を多く取り、過去の楽しいことや不安な思いを一緒に共有するなど、個々の状況に応じて支えあう関係を築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>様々な障害のある利用者に対して、顔色や反応の仕方など日常の見守りで意向を把握するように努めている。また、利用者と相性の良い職員を担当にしたり、カラオケで気分よく過ごしてもらうことを通じて思いを把握するなど、利用者それぞれの特徴に合わせて対応している。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>現場担当者がユニット会議で課題を抽出の上、ケア会議で全職員に説明し、看護師・家族や本人の希望も取り入れ、介護計画を作成している。しかしながら、介護支援専門員が交代したため、聞き取りが行えていない利用者もいる。</p>		<p>介護支援専門員の交代があり、利用者の意見や思いを踏まえた介護計画が作成できるよう体制の整備が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1回定期的に介護計画を見直している。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、ケア会議を月に1回定期的に開催し、担当者のきずきシートをもとに新たな計画を立案するようにしている。しかしながら、介護支援専門員の交代もあり、現状に即した介護計画の見直しを行うまでには至っていない。</p>		<p>介護支援専門員の交代があり、まだ利用者の把握が出来ていないため、利用者の状況に即した介護計画が作成できるよう体制の整備が望まれる。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所の隣に病院があり、24時間医者との連携が取れている。必要時には、本人・家族の要望で通院の介助や入院の付き添いなど支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隣接病院の医師や市民病院の医師をかかりつけ医としている人もおり、適切な受診ができる連携体制にある。耳鼻科や眼科は利用者が従来から利用している病院に通院している。また、定期健診、定期往診、病院の診察外に医師の訪問があり、利用者に気軽に声をかけしており、利用者や家族に安心感を与える関係となっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>急性、重度、終末期の対応マニュアルがあり、入居時に説明している。重度化した場合は、家族・医師・事業所職員とで説明・話し合いの場を持っている。看取りが必要となった場合は、出来る限り事業所で対応するが、限界時は医師の判断で病院で対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけは穏やかに行い、排泄の失敗時は他の利用者に分からないように配慮し、対応している。重要事項説明書にて、守秘義務や個人情報提供使用についての同意を取っており、個人のファイルは事務所内の鍵のかかる戸棚に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者は思い思いに食後寝転んだり、テレビを観たり、畑仕事や掃除などをして過ごし、職員は見守りながら声かけをしたり、利用者に寄り添って支援をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		引き続き外出計画を踏まえながら、利用者の外出の機会を増やすことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		人手不足で見守りが十分でない時間があるので、今後さらに職員間で話し合い、見守り体制を充実させ、鍵をかけないケアに取り組むことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回訓練を実施している。裏庭が広く、避難しやすい環境にある。民生委員の家が事業所に隣接していることもあり、協力が得られやすい環境にある。また、非常時のための備蓄も用意している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理者が栄養バランスに配慮した献立を作成しており、おやつも手作りしている。食事の摂取量や水分補給などは、その都度記録している。また、カロリー食、とろみ食、ミキサー食など個々の状態に応じて支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>どの部屋も採光よく、風が心地よく入ってきていた。リビングに置かれている調度品も落ち着きがあり、利用者の作られた作品が装飾として、下駄箱や飾り棚などに品よく置かれており、癒しの空間になっている。風呂は窓が大きく、自然の景色が見られ、また介護がしやすい広さである。廊下やトイレも掃除が行き届いていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はベッド以外利用者の持ち込みで、利用者の状態に合わせて思い思いに持ち込まれている。家族の写真の持ち込みで、利用者が喜ばれる場合もあるので、状態にあわせて働きかけをしている。</p>		

 は、重点項目。